

教科 (家庭) 科目 (家庭基礎) 単位数 (2)

類型 (共通) ・ 文 ・ 理) 履修規定 (必修) ・ 選択)

| 年間目標 | 1 青年期を起点として自分の生き方を考え、子供や高齢者などの異世代と関わり、共に生きる力を身に付ける。 2 持続可能な社会の構築を目指して、健康や環境に配慮しながら自立して生活する力を身に付ける。 3 男女が協力して家庭や地域の生活を創造する力と実践的な態度を身に付ける。 | | | 教科書・副教材等 | | | | |
|-------------|--|---|--|---|-------|--|--|--|
| | 1 教科書 | 「家庭基礎 明日の生活を築く」 開隆堂 | | | 2 副教材 | 「家庭科ノート」「調理実習ノート」 高教研家庭部会教材作成委員会編 「生活ハンドブック」 第一学習社 | | |
| 期 | 月 | 学習内容 (予定時数) | 学習目標 (短期目標) | 学習のポイント・観点別評価 | | | | |
| 1 学 期 | 4 | はじめに (1) 青年期の自立と家族・家庭 (6) ・ 青年期の自立 ・ 家族・家庭を考える | ・ 生涯発達の視点で青年期の課題を理解し、男女が協力して家庭を築くことの意義を考え、家庭や地域の生活を創造するために、自己の意思決定に基づき責任を持って行動することができる。 | ・ 今の自分を見つめ直し、青年期の課題である自立や男女の在り方について考えを深めることができたか。【思考・判断・表現】 ・ 現代の家族の特徴や家族・家庭を支える法律を理解し、これからの家族の在り方を探求することができたか。【知識・理解】 | | | | |
| | 5 | 食べる (18) ・ 食生活の課題 ・ 食品と栄養 ・ 食事を調える ・ 調理実習 | ・ 健康で安全な食生活を営むために必要な栄養素、食品、調理及び食品衛生などの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、生涯を見通した食生活を営むことができる。 | ・ 食生活を見つめ直し、現代の食生活をめぐる課題や食生活が環境に与える影響を学ぶことができたか。【関心・意欲・態度】 ・ 栄養素の働きを理解することができたか。【知識・理解】 ・ 生涯を見通した食生活を考え、各ライフステージの栄養素の摂取量を中心に献立・調理を工夫することができたか。【技能】 ○ 1学期末考査 ○ ノート提出 | | | | |
| | 6 | ホームプロジェクトと学校 家庭クラブ活動 (3) | ・ 生活上の課題を見付け、解決方法を考え、計画を立てて実践することを通して、生活を科学的に探究する力や問題を解決していく力を身に付ける。 | ・ 家庭生活の問題点を見付け、その改善に取り組む、実践することができたか。【思考・判断・表現】 ○ ホームプロジェクト提出 | | | | |
| | 7 | 食生活の課題 (18) ・ 食生活の課題 ・ 食品と栄養 ・ 食事を調える ・ 調理実習 | ・ 健康で安全な食生活を営むために必要な栄養素、食品、調理及び食品衛生などの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、生涯を見通した食生活を営むことができる。 | ・ 食品表示を基に、安全・衛生、新鮮さ、品質のよさを読み取ることができたか。【技能】 | | | | |
| 2 学 期 | 8 | 子どもの発達と保育 (8) ・ 子どもの発達と生活 ・ 子どもの育つ環境 | ・ 乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもの育つ環境について理解し、子どもを産み育てることの意義を知り、子どもの発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割について考えることができる。 | ・ 子どもの発達と次世代を育てる大切さを理解することができたか。【知識・理解】 ・ 子どもの発達への親の関わり方と子どもの生活や遊びについて理解することができたか。【知識・理解】 ・ 子どもたちが健やかに育つ環境を整備し、支援していく責任について考えを深めることができたか。【思考・判断・表現】 ・ 長生きしてよかったと言える生き方を高齢者から学び、ぶことができたか。【意欲・関心・態度】 | | | | |
| | 9 | 高齢期の生活 (6) ・ 高齢者の生活と課題 ・ 高齢社会を生きる | ・ 高齢期の特徴と生活及び高齢社会の現状と課題について理解し、自立した生活を支えるための家族や地域及び社会の果たす役割を考えることができる。 | ・ 心豊かに自立した生活を送るためのサポートについて理解することができたか。【知識・理解】 | | | | |
| | 10 | 共生社会における地域や家庭 (2) ・ リスクに備える ・ 高齢者と子育ての社会的支援 ・ 共生社会に向けて | ・ 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解し、家庭や地域及び社会の一員としての自覚を持って共に支え合って生活することができる。 | ・ 誰もが自分の持てる力を発揮し、共に支え合いながら安心して暮らせる社会をつくる方策を考えることができたか。【思考・判断・表現】 | | | | |

| 期 | 月 | 学習内容（予定時数） | 学習目標（短期目標） | 学習のポイント・観点別評価 | |
|--------|--|---|---|---|---|
| | 11 | 消費者市民として生きる (9) | <ul style="list-style-type: none"> 消費生活の現状と課題や消費者の権利と責任について理解し、適切な意思決定に基づいて行動し、生涯を見通した経済の管理や計画ができる。 持続可能な社会を目指してライフスタイルを工夫し、主体的に行動することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 経済社会と家庭経済の関わり、発生するリスクを知り、経済生活の設計と管理を理解することができたか。【知識・理解】 消費者の権利と責任を知り、個人の行動が社会に与える影響について考えることができたか。【意欲・関心・態度】 環境負荷の少ない生活のについて考えを深めることができたか。【思考・判断・表現】 | |
| | 12 | <ul style="list-style-type: none"> 生涯の経済計画とリスク管理 消費行動と意思決定 持続可能な消費 | | | <ul style="list-style-type: none"> 2学期末考査 ○ ノート提出 |
| 学 期 | 1 | 着る (8) | <ul style="list-style-type: none"> 被服管理に必要な被服材料、被服構成などの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、目的に応じて着装を工夫し、健康で快適な衣生活を営むことができる。 住居の機能、住居と地域社会との関わりなどに必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得し、安全で環境に配慮した住生活を営むことができる。 自己の生活について考え、主体的に生活を設計することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 被服の機能や被服材料とその性能について理解し、よりよい被服の着装を考えることができたか。【思考・判断・表現】 被服管理(購入・洗濯・保管)の仕方を理解することができたか。【知識・理解】 住生活の設計に必要な情報を収集・整理することができたか。【技能】 安全で快適な住生活を送るための知識を身につけ、環境にも配慮した住生活について理解することができたか。【知識・理解】 1年間の学習を基に、ライフコースをデザインすることができたか。【思考・判断・表現】 | |
| | 2 | 住まう (6) | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 2学期末考査 ○ ノート提出 |
| | 3 | 生涯の生活設計 (3) | | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学年末考査 ○ ノート提出 |
| 評価の方法 | 学習目標の達成状況や定期考査について観点別評価（【関心・意欲・態度】【思考・判断・表現】【技能】【知識・理解】）を行い、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動の参加状況の評価と総合し、100点満点で算出する。 | | | | |

○ 家庭基礎の学習法

1 基本的な心構え

お互いに人々と関わり合いながら、共に生きる社会の一員としての自覚の下に、男女が協力して家庭生活を築いていく意識と責任を持ち、生活に必要な知識と技術を身に付けて、家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を養うことを目標としている。

- (1) 生活の在り方についての一定の考え方や価値観である生活観を確立しよう。
- (2) 日常生活行為における各自の身近処理を自力で行う生活的自立を確立しよう。
- (3) 男女共同参画社会・家庭を形成するための基礎的知識と技術を身に付けよう。
- (4) 乳幼児・高齢者・障がい者と共に生きる意義、及び福祉の重要性を認識し、豊かな人間性を培うように努めよう。
- (5) 次世代に豊かな地球環境を残すために、今何をしなければならないかなどの問題意識を持ちながら学習に取り組もう。
- (6) 生活の科学・哲学・技術を身に付け、新しい自分らしいライフスタイルを確立しよう。
- (7) 一人の生活者として、生活態度・生活様式・人間関係等を学び、人生を主体的に切り開く力を身に付けよう。

2 学習の方法

- (1) 基礎的・基本的な知識と技術を確実に身に付けるよう、授業を大切にしよう。
- (2) 家庭生活の充実向上を図るために常に問題意識を持ち、ホームプロジェクト学習の充実を努め、計画・実行・反省・評価の流れに基づき主体的に取り組もう。
- (3) 学校家庭クラブ活動に積極的に参加し、学校や地域の生活の中から課題を見付け、課題解決を目指して、グループで主体的に計画を立てて実践する課題解決能力を身に付けよう。
- (4) 学習活動以外のボランティア活動にも積極的に参加し、共に生きることの大切さについて体験を通して学ぼう。
- (5) 情報化社会の流れの中で正しい情報を入手することに努め、家庭生活に生かす工夫をしよう。